

第50回 神無一族の氾濫

担当 神無七郎

☆今回の「氾濫」は「対称性」

が主題です。一口に対称性

と言っても、初形や詰上り

が対称形、回文詰のように

手順が対称、ルール自体が

対称性を利用してゐる等、

様々な表現が考えられます。

今回の作品にはどんな対称

性があるのでしょうか？

① ばか詰 107手

たくぼん

98 飛、77 玉、78 歩、同と右

97 飛、68 玉、69 歩、同と

98 飛、77 玉、97 飛、86 玉、

96 飛、87 玉、88 歩、77 玉、

97 飛、87 と、78 歩、86 玉、

87 歩、76 玉、96 飛、87 玉、

										1
										二
										三
										四
			銀	銀						五
	桂	桂	桂	桂	皇					六
	歩	ス	ス	ス	皇					七
	飛	ス		ス	皇					八
				王						九
王										

攻方持駒 歩9
受方持駒 なし

97 飛、78 玉、79 歩、同と、

98 飛、77 玉、78 歩、同と引

97 飛、76 玉、77 歩、同と引

96 飛、87 玉、97 飛、78 玉、

79 歩、68 玉、98 飛、78 と直

69 歩、77 玉、78 歩、76 玉、

77 歩、同と寄、96 飛、67 玉、

68 歩、78 玉、79 歩、68 玉、

98 飛、78 と、69 歩、77 玉、

78 歩、67 玉、97 飛、77 と、

68 歩、76 玉、77 歩、66 玉、

67 歩、同と寄、96 飛、77 玉、

97 飛、78 玉、79 歩、68 玉、

98 飛、78 と、69 歩、77 玉、

78 歩、67 玉、68 歩、57 玉、

97 飛、67 と、58 歩、66 玉、

67 歩、56 玉、96 飛、66 歩、

57 歩、67 玉、97 飛、77 歩、

68 歩、76 玉、96 飛、86 歩、

77 歩、同玉、78 歩、87 玉、

97 飛、76 玉、77 歩迄 107 手。

占魚亭―と金剥がしパズル。

移動合で歩頭にと金を呼ん

で補充していくのが上手い。

☆盤上に歩を設置し、その歩

の頭にと金を移動させて取

るのが基本パターン。飛は

9筋から出られないので、

利きを使った遠隔操作に徹

します。空間が狭いので細

かく形を調整し、手数や持

駒が不足しないよう、最適

な消し方を選ばねばなりま

せん。でも、と金を消す目

的は何でしょう？

駒井信久―59金が曲者。これ

を取って詰ますと思ひ込ん

でしまう。小駒成駒をでき

るだけ少なくともという意味で

は当然の配置だが。

☆いかにも取ってくれと言わ

んばかりの59金ですが、こ

れは単なる早詰防止の配置。

と金を消した真の狙いは、

その跡地に歩で壁を作るこ

とだったのです。

作者―と金採掘の一幕。創作

はまさに非限定との戦い。

結構お気に入りの作品です。

☆複数の「と金はがし」は非

限定を生じやすいので、完

全限定はお見事。中でも87

との配置は秀逸で、消され

るまで6回も動きます。更

に締め括りは先打突歩詰。

解き応え充分の密室型謎解

きパズルでした。

②キルケばか話 5手(2解)
青木裕一

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
				馬				六
						馬		七
				馬		馬		八
								九

持駒 飛角

(a) 48飛、同玉／28飛、59角
39玉、29飛迄5手

(b) 67角、同銀生／88角、59飛
68玉、77角／91香迄5手。

【キルケ】駒が取られると最も近い将棋での指し始め位置に戻される。戻せないときは持駒になる。(復元後の位置と駒を/で表記)

岩本修―初形は左右対称で、手順はツインでないよう

やっぱりツインな感じがする不思議な作品。

☆キルケは左右非対称ルール。将棋の初期配置は飛と角が左右非対称なので、左右対称形から左右対称の手順は別手順扱いされます。

作者―左右対称形で右と左で1解ずつのツインです。角と飛の着手の対比もあります。

☆そんなキルケの左右非対称性を逆手に取り、左右対称形から右と左の違いで飛と角の役割を入れ替えたのが本作。「対称性」と「対照性」を一局に内包しています。

西村恒雄―両題とも復活した飛角が止めを刺す。
弘光弘―飛捨てと角捨ての対比がおもしろい。角の方は同銀生で逃げ道をふさいで

いるところがいい。

☆ aは飛を捨てて飛でとどめ。bは角を捨てて角でとどめ。もう一枚の大駒は脱出防止見事に二枚の持駒の役割が入れ替わっています。取られた駒が復活するキルケの特徴を最初と最後に使う手順構成も効果的です。

③点鏡ばか話 5手
神無太郎

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
				王				四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 角桂桂

46桂、64金、66桂、44玉、55角迄5手。

持駒 なし

【点鏡】55に関して点対称な位置にある2つの駒は、趣味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

☆点鏡は敵味方関係なく性能が入れ替わるので、目まぐるしい性能変化が予想されます。どのような方針で解けば良いでしょうか？

安井豊―桂馬になれば詰めやすい？

☆性能変化ルールの基本は「玉を弱い駒にする」。本作の場

合、持駒に桂があるので玉の利きを桂にする手を狙います。ただ、いきなり66桂、44玉と進めると36と56への脱出を防げません。

☆そこで46桂、64金の2手を入れて性能を交換し、脱出を防ぎます。性能変化ルーのもう一つの基本「攻方を強くする」です。

和田裕之「点駒?できない55がとどめ。

竹園政秀「最終手は55に打つ。

☆55地点は点鏡ルールにおける「聖域」。他の場所だと対称位置に駒を打つ応手があります(これを見落とした誤答が複数ありました)が、55なら性能が変わりません。玉も金も桂の利きなので55角を取る応手もなく、これで詰みとなります。

須川卓二「5枚での詰上りX

(10)で50回を祝う:無理やりですね(笑)

☆作者の狙いは初形と詰上りの幾何的対称性(とルール自体が対称性を利用してのこと)だと思えますが、折角なのでそう解釈することにしましょう。

④点鏡ばかり自殺詰4手(2解)占魚亭

									王
									王

持駒 飛

- (a) 12飛、98角、89飛成、21金迄4手。
- (b) 99飛、12飛、21王、11金迄4手。

☆点鏡で玉が隅にある手順

は盤一杯に広がり易くなります。本作を解く場合も視野の広さが重要です。

止少丘八「上から行く方はすぐに見えたが、左から行く方はなかなか見えなかった。

須川卓二「99飛の順は点鏡の特徴を活かした好手順。

作者「aの手順だけだったら迷わなかったのですが、ダメ元で投稿します。(後略)

☆a手順は飛が角に変身して大移動。作者本来の意図はこの手順だったようですが、自然発生したb手順は作者も捨てるに捨てられない妙手順でした。

☆b手順の初手99飛は飛ではなく王による王手。性能変化の元の駒(飛)で王手が掛かっているように見える

のが面白い所です。

☆その後も12飛合の逆王手、飛の性能を元に戻して王手を継続する21王等、気付きにくい手が続きます。飛が派手に動くa手順と、飛が一切動かないb手順。内容的にも対照的な2解です。

某氏「(aのみ正解)「形からして最終手は21金しかない。

☆こう思い込むとb手順の発見は困難です。無理に21金で詰めようとして「79飛、31金、89飛、21金」とした解答もありましたが、最後の21金が飛の利きなので12王と逃げられません。

中澤宣幸「点鏡の入門としてわかりやすかったです。

☆本作の2解を両方解ければ、点鏡の基本を習得したと言って良いでしょう。

⑤ばか自殺詰 40手
たくぼん

9	8	7	6	5	4	3	2	1
		●	●	●	●	●		
		●	金	王	金	●		
		●	●	金	●			
		●	●	香	●			
		●	●	王	●			
		●	●	●	●	●		

攻方持駒 飛
受方持駒 なし

- 47 飛、66 玉、65 金寄、56 玉、
66 金、同玉、46 飛、56 香、
同飛、同玉、55 金、同玉、
45 金、同玉、47 香、46 飛、
同香、55 玉、65 金、同玉、
63 飛、64 金、同飛成、56 玉、
54 龍、67 玉、63 龍、64 金、
66 金、57 玉、54 龍、55 金打、
67 金、46 玉、43 龍、44 金、
57 金、45 玉、54 龍、同金引
迄 40 手。

【●】不透過・不可侵の領域。
跳び越すことは可能。

☆四角く並べられた●が目を惹く初形。3×5の盤で、所定の駒のみを使って詰めるミニチュア詰将棋です。田中孝海―3枚の側近(金)が、最後は敵側に寝返る面白さ。

作者―4段目の金が詰上りで全て裏返るのが狙いです。

☆この構図では攻方玉は動けないので、四段目に並んだ3枚の金をすべて受方の駒にする詰型は想定しやすくないでしょう。問題はその形をどうやって作るかです。

駒井信久―回り道をしないよう少し工夫が必要だった。
☆早々に盤上の金を一掃して龍を作り、その龍で金合を発生させるのが最も効率の

良い手順。龍を作るには3段目に飛を打つ必要がありますが、初手に飛を使ってしまいうので、飛から香、香から飛への交換を挟み、飛を持駒に戻します。占魚亭―63龍からの金を3枚出す流れがうまくできている。

☆金が消え去る前半20手と、金が湧き出る後半20手。手順構成も対称的で、今回の締めに対応しい作品ですね。

【総評】
須川卓二―氾濫50回おめでと

うございます。毎回お題に沿った作品で楽しく苦しく解図させて頂いております。

(後略)
☆ありがとうございます。今後も「半年に一度のフェアリー版力試し」として、少

々手ごわくても、苦勞に見合う価値がある作品をお届けできればと思います。

【各題の正・誤・無解者数】
(複数解は各解ごとに計上)

① 5 0 15 2a 16 0 4 2b 13 0 7

③ 8 3 9 14 0 6 10 0 10

⑤ 5 0 15

【解答成績】(太字5名当選)

【全題正解】駒井信久、須川卓

二、占魚亭

【6題】西村恒雄

【5題】田中孝海、中澤宣幸、

止少丘八、和田裕之

【4題】原雅彦

【3題】竹園政秀、原岡望、

安井豊

【2題】岩本修、周露珍、

弘光弘、森美憲、山本強志

【1題】赤井秀雄

【0題又はコメントのみ】

鈴木彊、武田静山